



# 汚濁物質低減試験(NSF/ANSI42規格準拠)

水処理薬剤の、NSF/ANSI42規格に準じた評価試験を実施いたします。

## 汚濁物質低減試験(NSF/ANSI42規格準拠)の概要

NSF/ANSI42規格は、水道水の味・臭・色に影響を与える特定の汚濁物質を低減するための飲料水処理装置の材料、設計、構造ならびに性能に関して、要求事項を規定しています。特定の汚濁物質として具体的に挙げられているのは、各種化学物質(塩化物、起泡剤、硫酸塩)、クロラミン、残留塩素、硫化水素、フェノール、鉄、Mn、Znおよびスケール物質等です。お客様が保有するこれら汚濁物質に対する水処理薬剤や市販の各種薬剤を用いて、NSF/ANSI42規格に準拠した評価試験を実施いたします。

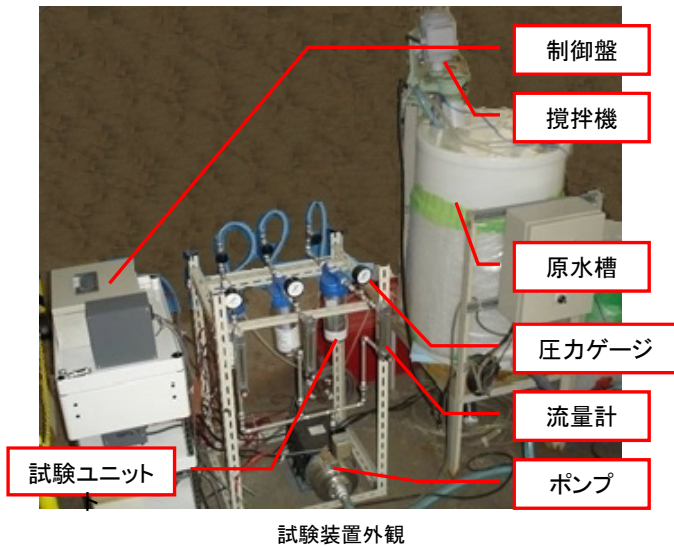
### \* NSF/ANSI規格とは

ANSI(米国規格協会)により定められたコンセンサス・プロセスに基づいて、NSF合同委員会によって作成された規格。

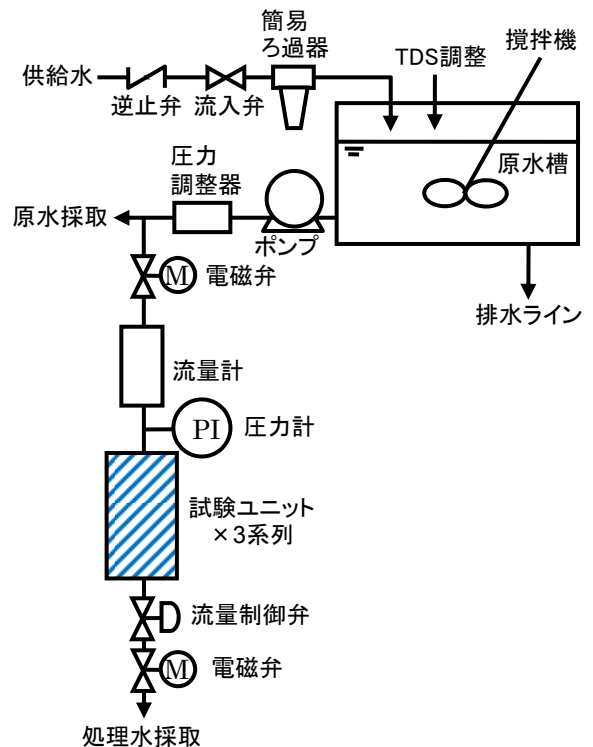
## NSF/ANSI42規格に準拠した試験の実施例

### ● 試験装置例

スケール制御試験を例とした場合の試験装置外観と概略フローを以下に示します。



試験装置外観



試験装置の概略フロー例

### ● 試験実施例

リン酸塩は0.5~10mg/L、ケイ酸塩は0.5~16mg/Lを添加して所望のTDS(総溶解性物質)に調整することが規定されています。この調整原水はスケール抑制剤の充填された試験ユニットに、下表に示したタイムスケジュールにて通水され、処理水として採取されます。通水の稼働、停止は、タイムテーブルに示したような複雑な運転条件となり、開始から終了まで連続11日間の時間を要します。

試験のタイムテーブル例

										合計
間欠運転	回数(回)	17	17	117	17	151	17			336
	時間(hr)	5.5	5.5	38.8	5.5	50.2	5.5			111
完全停止時間(hr)		48.0	4.0	48.0	4.0	48.0	4.0			156
採水ポイント(完全停止後)		○	○	○	○	○	○	○	○	6回

※間欠運転は、10分通水、10分停止(410kPa圧力保持)のON-OFF運転  
 ※総運転時間は、間欠運転111時間、完全停止156時間の合計267時間(11日間)